



8
9
80
1
2
3
4
5
6
7
8
9
90
1
2
3
4
5
6
7
8
9
100
1
2
3

門へ13
號8912
卷3

新累解脱物語 卷之三

東都 曲亭馬琴纂脩

第五

二靈隱蕙を賣て 醜女再び棄らる

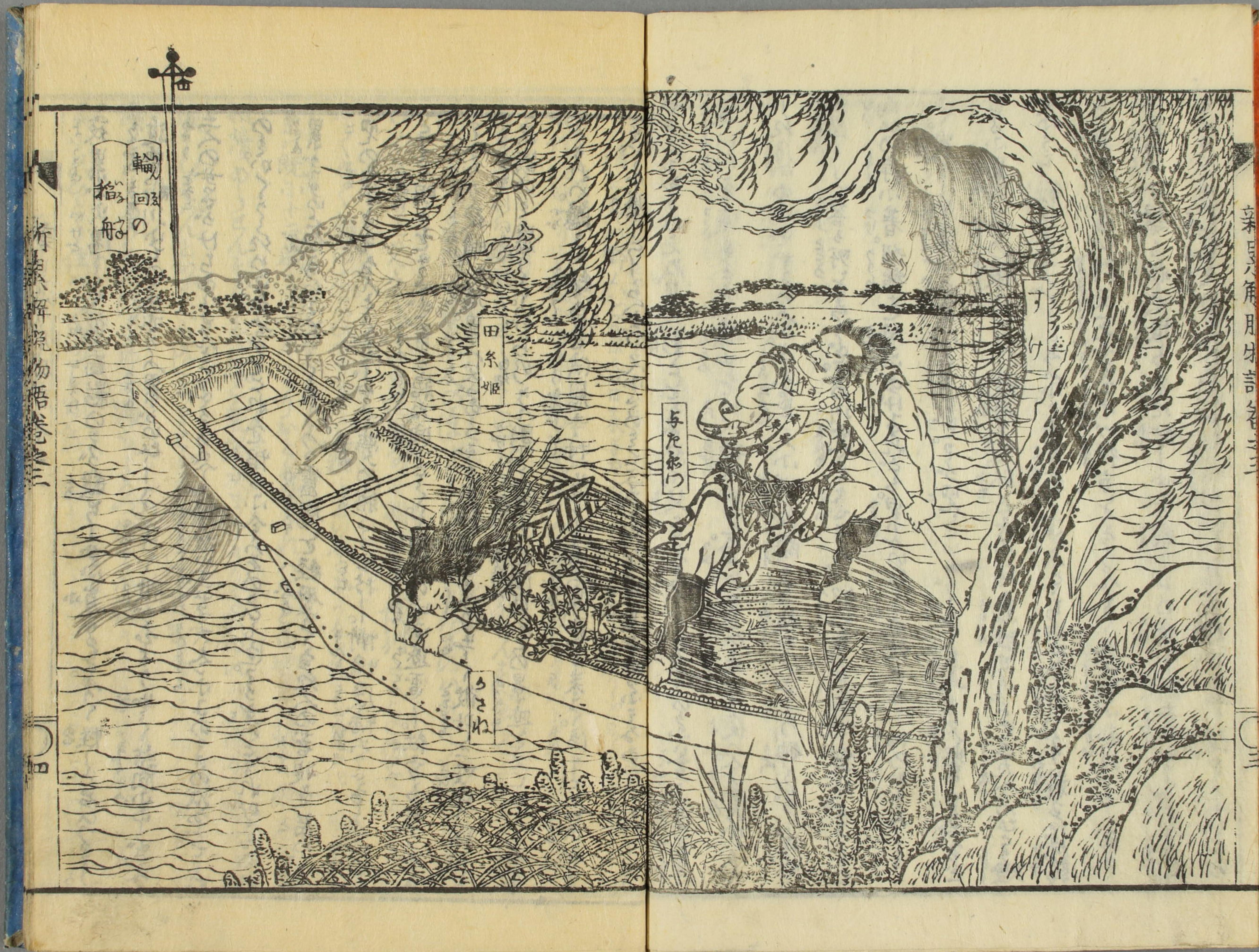
一刀煩惱を断く 美男初く仕

織越与左衛門。玉芝を召す。その本意を遂まぬ。かのひかくは五六十両の金をりこゝる。羽生村小帰にて後田園を買ひて稼とう。世を渡ると近隣の人々。怪し。彼が武藏小到りて。小高きどき。されど。いかに往かず。小山の金の出来べをやう。大きき道をくね所行をちつゝと。わあくさう。夥の金の出来べをやう。大きき道をくね所行をちつゝと。わあくさう。小山の舉止小目をつらう。人へあねど。れど。やと睦み相諾ひ。のうのうえ。形貌こそそぞりふも似ど。ひとひもう醜ううり。され健小生育く。の後病ううふあくさう。うる。向小父与左衛門。一旦没跡す。あれど。原未人を

殺一も奪ひとく。金をりく買強也。田圃もわせり豊あれどもおのが田
の旱損水損し。束の稻粒もとく。果实もとく。田圃を人小賣あられをとせられ。
次の年よりよく登り。これ僕珠雞と田糸姫の寢媿。彼親み小畜縁て
活き殺しあるすべ。されば五七年の春秋を経て。与左衛門が貯福巻く
鶴赤貧もとく。小傍まよ。累たまひ十二歳おとこ小さり小づれ。田植草薙くさなぎふたと
ちうく。父のとけとあるものとえり。寔まこと小世よ小稀まれ。醜女うじめあると。
おおざまの父おとうもとく。怜物れいぶつあれば。彼をいとも憐り。からりとあど
子こを生う。僅すこ小賣うり残のこ。田圃たんば。緑川みどりかわの向むか。夷山寺えいさん。道場どうじょうのほ
小あくとこ。親みりぬみるぬ。はとらく。彼川かれを渡わた。終日耕う耘う。家
小歸かへ。及およむ途と日を暮くろ。ある日又緑川みどりかわを渡わたて。ゆう小累こ
物もの小駭こだ。怕おのれて。父おとうと推たぐ。よと泣なき。絶ぜつむ入いべにまきあれ。手をかし
驚おどろ。あや。とく。それとも泣なき。頻ひん。小兒こどまごく。そとく。肩かたく家いえ
帰かへ。とく。行ゆ。のあく。とく。泣なき。とく。小累こ大息おおきのきを吹ふきよやう。
父おとうあれをえあ。とく。泣なき。とく。父おとうと子こ。右うの岸しore。父おとうを疾視
眼光おこう。とく。を拓ひらく。の細ほそ。物凄ひどき。に。と。泣なき。とく。小累こ。大息おおきのきを吹ふきよやう。
父おとうと子こ。とく。胸むね。とく。形容ようぎ。とく。間ま。累こ又また。入い人
ひと瘦やせ。とく。顔おほ。川かわの水みず。青あお。とく。襟えり。搗う。の給くわ。小麻こまの帶たすきを前まへて
結むす。長なが。とく。黒くろ。髪かみの毛けを。波なみの上う。とく。立た。とく。又また。入い。面おもて。夜よ。父おとうと
漂うき。纈き。顛ひんの草衣くさぎを被は。かく。おもろ。かく。のと。意い。と。意い。と。意い。と。意い。
おわ。とく。父おとう。とく。忽すこ。地じ。小骨こつ。も。とく。ま。前妻まへいし。とく。珠雞たま。と。墨田
川かわ。とく。押沈おし。とく。醜婦うじめ。の寢媿ねいめ。立た。や。あ。う。れ。ん。と。よ。ふ。い。と。ほ。す。う。れ。ん。と。よ。ふ。く。
と。よ。ひ。とく。叮つぶ。とく。とく。笑わら。とく。怪あや。とく。狐きつねの。不ふ。な。う。り。とく。とく。とく。

さうれども。やあがひからら。次の日又累をねく草野小田んとくら小累
のまかの小懲くやドとりふをさめ。小きどめ賺へて親子終日糸玉黄昏日
絹川を渡りつ。角下小累が怕れまどく泣とオドロのじ。与を出づ。まどく
腰より錆をとりあは。彼此代えつてども。にえて眼小遠くのものほ。こねうり
のち後へも。一を西りく。身の構を取つて。の川を渡る。の次の日うり
あつさる怪しいもあたる。累が怕れまどく止ひれば。おたかひへや安堵さへ。
おばことまづい小達のね。女とえ蔑てく。船のよきられ小威だるあり。被憎う
べく。高す小罵り。終小忌憚る氣をあへて。日少く。彼處へ到りぬかく
その年り秋の季小及ひ。与左衛つへ累とも小ちのび稻穂残とかく刈う。
これを帶小積て。びくの篤をとく。絹川をこゑの岸小渡し。頃一も
九月十六日の月圓小出く。流るゝ船も又さやけ。累へ袖小ゆく。天や水。水
や天ともありほえぬ。と影ととさがや。父をえく。年。の年。の年。
墨田川を渡る。醜女を川へ投入して。金糞糞ひまする夜。今宵小ひと
れの月小あく。とひよふ。手を束つ大小時。顔うち根やく。どう醉ふら。あま
せ然とて答ふ所をきく。川空く。急ぐれ。船のさがり。小やむつ。とくと
向ひの岸小著刈稻を薩ふあげられ。も累がひく。たとく物のふとくと
そ。家まぐ。運ひ入さんとわざ。とが心をひく。と立まく。夕餐をまく。と
まるふ。累の登の稼ふく。疲勞く。卧とその倦熟睡せり。とくとだく。ひく燈
火ふら。對ひく。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ
を追ひ。とくふ。新玉芝を各おが往方をきく。とくふ。武藏小赴に。とくふ。
とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ
とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ。とくふ

新編 梵天物語 卷之三

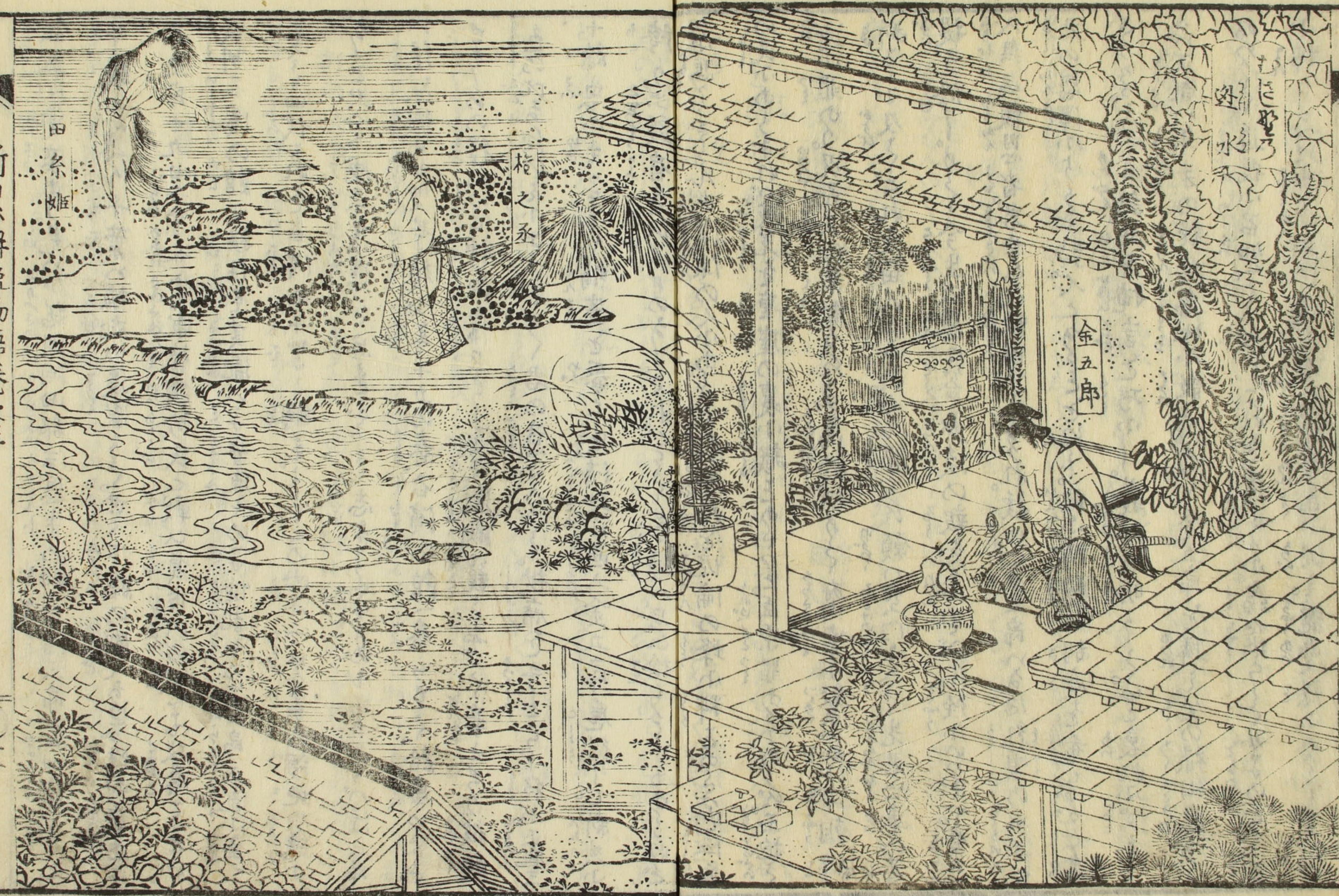


先武藏國石濱より西入權之丞よりまく小謀課より田糸姫とす。うひみくも
過と訴え且く引龍くあらうる。あほ人の疑ひと避んかふ一封の願書を
写す。雅龜小獻とも田糸姫のよりあうるかほづる。今とう身の暇をあつて
く。本のあん限り往方を索ひ。とめゆきとめゆきと頼みえりうる
を。惟流原末との詭すとあふ。叮寧ふられを諭し。田糸がゆくあくまうと
より。國く一人をゆく索をもどし。今小至く信す。且陰陽師の勘文す。
存命むとくこと。あらるをせが索をればとく。勞めの事と功めく
只後世の追薦と肝要されと仰る。龍遇すら小異あらざれ。權も巫賀小
院び生平小人小對く。田糸姫はるが妻あり。原主君の女児ふく
ありとあらふ。朝故く逐電もとども。存亡も定めず。さよようて。
され誓い後妻と娶らとおり。どの人の家小きりのあと。内を多う小便よ
らど玉芝ハ日未田糸姫小仕し。おそれる御の御。彼を傷室とす。新狀
のる城主とぞよべし。あらが迹あた妻のゆも博る。べくとく。よろう理ゆけ
小ひひうら。遂小玉芝を傷室とす。雅龜あると外とす。ひく。權も丞
の信ありのとぞひ悟る。取用するゆす。篤く。の年の終く。小庵崎嘉祐内病
く。身すうりされば。すくもの述小をうれり。かうる程小次の年玉芝男子を産
ね。世小賢たり思ふるも。家子を生じるほど。娛へなれ。殊こうこの兇容
止玉のとく。せふうとく。えまゆをうす。殊こうこの兇容
ゆと愛をいたりのふ。ほん。それを金立昂と名づく。養育うり。うのを多ふ。里
く物語あし。さとも光陰箭のひ。又梭のひ。秋と暮れと春とくらむ。權
のとく。丞が一子金立昂。既小十五歳。小どあわうる。人ともう隨小。との美貌。父女
とも勝る。林足の安陵君が秋の波。魏の龍陽君が春日の媚い。もう。真雅僧都

おまかせれ。權三丞もぐく醉の醒さざく。さへふとく刀と投捨我よしあくで
驚けよどん。そもそも何を名づくも恨り志す。さんは亦もスレひがひよ。阿答ことまと東
マヌツ、怪きものやうとく。或い終つて或い悔歎くふそ奴婢も言ひ辭してりよ
す。目入ア蛇の袖前小跋疊るく。玉芝の主はとてぬひーと。家次ア田糸姫
とゆうけく直か玉芝の首キ落一ぬ。因く僕よりへさくす。即君に
く抱だ苗んとく。小火挾み臂とく。加旗松樓の上ふ物の笑ふ声をい。

蛇う迹うく失ふる。さるはうふと。見すら陳され。權三丞ハシタ。彼ヲ彼
が。画うきて。人ノ恨みをうなねば。うら歎きく頭。ま擡ひる金五郎を諒
慰め。奴婢あふるのう人ふをまし。べうをとく。堅くその口を鉗き。人を入れ
く玉芝が首をうづだ。足を轍小杠あらへ。急か病わうと。稱して家え
て。次の日玉芝が死んで。とひまくして。満開寺へ葬り。あれども權三丞
ん更小安。つぐとおひす。ひす日墨田川。田糸姫の寢魂。航立
あづれ。を。夫庭小切拂ん。愕く玉芝を殺す。今猶悔く。など。
これ田糸姫と呼び。牧婢もく。あはれ。玉芝と殺させるのうべ。さう。小年未ね。と
おひす。田糸姫を觸れ。とまへ。親子がうり。やうり。さん。とやせ
ま。かくやせ。と。かく。あひり。物を折。惟胤老病。身小迫。の年
の秋逝去。嫡男正流のせとあひ。權三丞。くふくふ。とゆく。とゆく。
ひやくも。正流。田糸姫の兄。あれ。え来られ。と快く。の。人主君と。お
みじく。衰人時を。え。おとめ。おとめ。おとめ。あげ。忽地。醤と。おとめ。お
とめ。所詮。と脱。迹を隠す。それともあれ。金丘島をせふ。あくせんと。お

ひ定り。す。夜空鶴小一封の遺書と写め。路費より行程小用意。何回とも
さく逐電に。与た坐つどひ。權も私といひ。年未かざ年の獮に。似けるく。を
うのあやしと。そく駆けられ。と。棄迹を聞。彼冤鬼小説され。萬里
の。そく小迷ひ出づん。隱匿の報。ど。ば。金立扇。父が遺書を
そく大よ驚鳴た。縁故。いふことあるが。それ。追田んとする。よ。えと。往方
を。あく。愁傷のする。あく。一日二日と。黙止せ。かく。て。あるべに。下す。ね。が。縁由
を。正道。小失え。あげ。父が。遺書を。進。ア。正道。よ。向考。彼遺書を
商。失ふ。その。を。や。先君。惟胤の寵遇。莫大。と。述。と。田糸姫。往方。あく
あく。頃。哀裏。小堪。さる。小ト。仕。を。致。一。觸。と。徧麻。す。分鏡。再合
の。日。を。圖。らん。と。願。ま。し。小人。或。田糸姫。既。小失。り。と。ソ。モ。り。と。許。ゆ。ひ。され。今
小失。十六年。一日。も。安。に。公。う。あく。小先君。逝。去。す。ま。だ。か。ぐ。望。を。喪。と。い
ふ。悲。う。さん。夫漢陳の人。小失。され。明珠。と。尼倫の蜂。小料。と。あ。く。は。泣。血
の。民。小失。され。夜光。を。重崖の裏。小識。と。め。く。は。臣原罪。ゆ。く。玉抱く
遂。小失。ゆ。况。死生の果。敢。う。な。す。萬鈞。絆。く。府肉索。小繫。が。如。一。朝。緯
提。を。修。し。り。く。今生の恩。小答。身後の報。を。念。め。く。経。小。ら。ば。や。垂惠
入。無。爲。報。因心者。君幸。ひ。に。怪。ゆ。か。と。う。れ。接。四。金五鼎。ひ。る。乳。噴。の。虫。年。
君の因心澤。小失。され。人。と。う。と。と。ゆ。偏。小憐愍の制度。を。希。ま。ら。と。書
う。う。う。との。言。語。非。を。掩。言。と。巧。や。義理。分明。う。う。と。哀。れ。小失。え
う。正亂。八。年。未。の。疑。念。忽。地。小。散。く。かく。金五鼎。と。憐。も。父の。欲。相違。り
み。う。う。近。従。小。呑。か。く。も。く。れ。を。亦。胸。も。く。小。窓。空。逃。く。さ。す。の。づ。く。せ
小。稀。う。う。べ。て。少。年。ま。じ。く。正。亂。忽。地。男。色。小。泥。と。寵。愛。殊。小。く。ア。リ。る。抑



卷六

印幡を賺て夢績靈夢を説く
金五を罪て正亂婚姻を命を

を。其虫のひとりやる。夜間の鐘さへまづ胸ふづくと物さどふす。未だ
の釘のうつまむ。どの願みとせぬとめづる。神小祈そつ。その年もひづく。
暮とく。春も弥生のうづかきりね。

印幡を賺とく。苧績靈夢を説く

金五を罪とく。正胤婚を命を

とく。小亦正胤の茶道小山梨印幡となりたりありたり。彼のむじ明肇の壯士。門
野三を宴ひ。悪報小よき。ゆゑに元を遂ぎ。傍人山梨治部がり

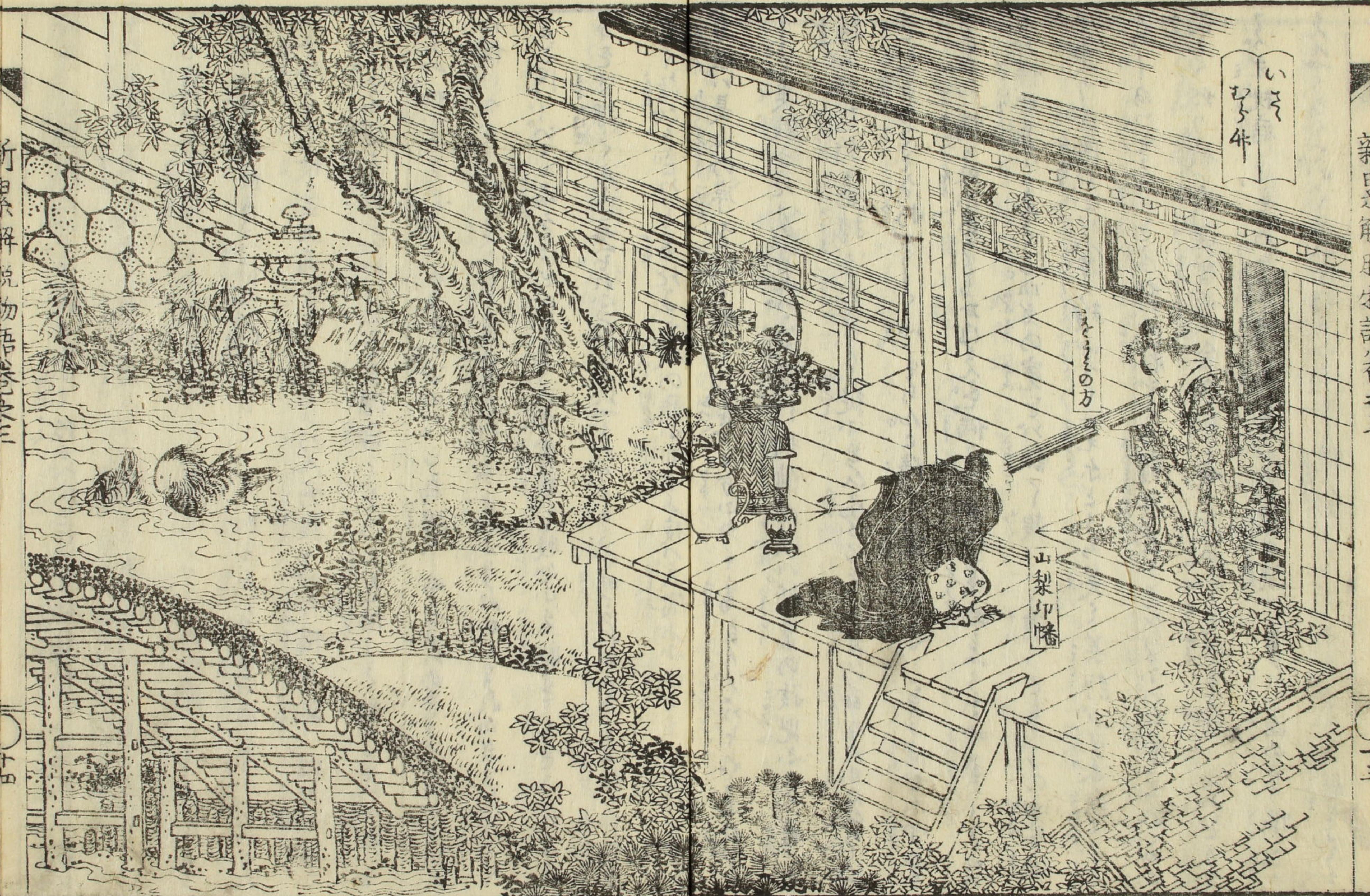
新羅角朋生詩卷之三

すあり。すかよ。千葉家譜代の昂黨されど。父が不義の故に用人
と爲め。年齢三十かあると。あは茶道もくあり。と。よく人憂を
思ひ。某枯得喪の仕官の常。人の才学より力及へて。あわづれ。
あそび。あくこ夥の年月を。あく小印幡の近苗亭績が。西入金五
郎を始く。もの氣色あるを。あく。あく。が。茂跡へ。すか出来。と。隨
詮。只顧亭績。小僕媚。彼婦人の言ふ。小室と。主君正流の命。あり。まほ
致ひ。かく。叮寧。小務。一。亭績も。それ。小目。を。つ。まく。この印幡。こそ
まか。方人とも。うべ。の。され。と。うひ。と。う。あく。れども。互。小。り。ひ。即。ふ。う。く。く。
む。く。く。ま。る。小。有。日。亭績。ひ。の。ひ。端。近。う。せ。く。越路。小。ゆ。天津。雇
を。うち。瞻望。風情物。ひ。ふ。え。め。の。西施。が。心。と。病。う。も。似。う。ぎ。
印幡。ひ。よ。折。こ。と。ぞ。ひ。く。その。ほ。う。小。あ。き。う。あれ。え。あ。ひ。と。よ。亭績の
方。雇。長。ゆ。の。序。を。し。ま。せ。し。の。落。ば。に。か。小。ち。く。鳥。り。く。ん。う。う。う。う.
し。く。果。敢。あ。た。み。あ。れ。ハ。小。や。譜。代。相。傳。の。僕。ハ。新。糸。の。残。児。小。さ。く。帝。モ
超。られ。愁。訴。と。の。據。を。い。ざ。く。徒。小。さ。く。居。り。の。幸。ま。く。小。名。く。く。が
生。ぐ。印。幡。が。外。小。あ。く。と。も。お。ほ。く。と。倘。ま。身。の。度。跡。あ。う。小。吹。墨。一。こ。の。の
ら。僕。亦。身。小。さ。く。え。そ。し。の。寛。と。が。輒。く。報。ひ。と。進。く。と。き。ん。の。回答。因
て。あ。く。と。憲。じ。て。り。の。亭。績。す。く。亭。爾。と。うち。笑。え。其。許。が。自。未。信。く。く
の。一。内。と。ろ。る。と。あ。れ。ば。向。け。ど。と。か。頼。ゆ。あ。べ。う。う。つ。ふ。り。じ。あ。と。う。れ。く。と
面。う。く。作。り。殿。お。近。曾。西。入。金。立。昂。と。す。ん。づ。ハ。小。戸。裡。を。と。變。し。の。と。そ。
ま。が。茅。枕。席。を。ま。め。あ。り。使。ハ。稀。う。ね。う。た。限。と。み。れ。が。画。の。う。恨。い。や
え。ん。す。あ。く。と。か。く。だ。ひ。と。ほ。の。の。り。彼。人。き。と。わ。ひ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

いそ
むす牛

まくらの方

山
梨印幡



けを。其許のうへまくべとれひや作べりといひを。印幡はすか果ば大小詔び。
もの一言が小義もべ。金五郎を喪んべ。僕がま裏小の。ころ易く是ひたま
ちど應ける。苧績の氣きをつゝ。孰と。の印幡の年三十小の草
事ども。童扈従うて侮れ。阿客ことしに恥るを。愚心者うろふりでこれ
が分際うて。被金五郎をうあひけん所詮ま。印幡を詠り。彼を性儀小
そく。それが謀を移ぐたのきと深念し。あは声を低く。うづくらひ。身を
うう物ふくろひ。人あれば。万小一も爲損ト。あらゆるあるすドタれど。その人
小傷けき。後小より後覺あが。とされかくまれ。はりよひと
ことほじ。へよく志をよせんと。今霄殿の寝處小立躰止。金五郎はやく
手を。史課く。あらわ。それふくでます。やうお。うくと。曉られあ。あと密詰ハ印幡ま
もく詰じ。どりと易紀。殿の聽小卧。よ夜。立幡。小便。故い。ふとあれど。
遠侍う。入。寝處の床の間小居。あ。の鎧唐櫃の裏小躰居。うさ。
その夜の相語。審小立裸とべ。どの多い。小行。と信。う。苧績
くかく嘆賞。寔小。前の大智の廬。う。人の鎧唐櫃こそ。究竟
の隠家。され。今宵。ふ。あ。ひとといふ。印幡。こころ。治果。く。え。け。小。や。姫
婦の奸智。丈夫。も。勝。る。と。あり。苧績の年。あ。ほ。十七。小。麗鹿。う。と。羅綺
小。し。堪。が。風情。う。小。心。の。鬼。う。た。あ。ど。く。斯。の。知。る。外面。如。菩薩。内
心。夜。父。と。佛。の。説。一。も。宣。あ。う。る。そ。の。時。苧績。ひ。ま。は。處。も。ま。ら。ど。と。と。年。を。う。ま
思。思。ま。る。小。心。地。う。小。謀。を。生。ト。び。と。う。會。笑。う。お。し。む。れ。女。の。童。走。り。ま
目。今。う。殿。の。後。堂。小。入。と。あ。か。と。告。小。り。れ。べ。苧績。ひ。い。も。く。生。迎。く。この。日。の。寒
暖。を。述。う。じ。よ。う。う。ど。か。と。う。小。殿。ね。が。う。千。葉。葉。の。神。社。一。代。喬。の。人。を
遣。う。妙。見。菩。薩。を。參。ら。く。ゆ。と。り。正。亂。ま。く。眉。と。顎。軍。千。紫。の。神。社。ハ。氏

の神ごうくきすうとう。すうとう。あうとう。あうとう。戦せん小こ家いえららとい
ふふ心こころとほ。とほりうるう故ゆゑとゆゑ同おなくく。茅しの績じのううひひへへやや。昨よ夜よあや
しし夢ゆめとえんえりりつ。壁かべ言い千せん禁きんの妙めう見み井いの枕まくら方かたはは立たああひひ。翌よの夜よ正せい亂らん
うう小こ殃やうああ。タタ田たの足あしとと刑けい。冒ぼうの角かくを折おりらら。恙いたももべべ。と告げぬぬとええく覺お
絆わ。あうりり小こ灵れいききううれれば。覺おく後うしろむむくく安やすららど。ままの身みかかめめど。
まま彼かれ處ところと謂いと稱め。偏へん小こ命めいを稟うながす人ひとを代だらら。君きみの安全あんぜんを禱とう。や
さんとやののよそ。今いま氣きうう廻まわ小こ入いりををああくをを行おこなはは。と誠まことに一ひと不ふ平へいええ
ううれれば。正せい亂らんああがが沈吟くわんぎん。世よ小こ冥めい夢ゆめといふふああたた小こももああくくねねがが。ささががくくも
隕おち。眞まこと觀くわんの二にの隱語ひんご。輒たゞく解わかしし。ととも彼かれ菩薩ぼさつの美うつく驗けん
指さし焉ゑ。今いま小こももううべ。されを極きわめめりりとともかにに禱とうの使つかい頬ほ小こ遣おとははれれりりとと。
仰あおく。すすく近ちかいいののよよとと笑わらひひ。真まこと小こ腹はら足あしままとと旨じをを仰あおららざざ
經よ小こ山梨さんり印いん幡はた甲かつ夜よ小こ人ひとああた折さき窺くわひ。主お君きみの寢室ねむ室小こ竊とう行ゆて。ややうう唐とう
櫃ひつあある甲かつ由ゆ日ひを引ひ出だす。是これをを床ゆかの下下小こ押お隱ひして櫃ひつの裏うら小こ入いりんんととままる。す
帶おびささ太た刀とうの後うしろ方ほう前まへ方ほう小こつつてて自在じざいううねねば。鎧よとと小こ遙とおうう捨す件くだんの
櫃ひつ小こ身みを溜たまららく。裡うちより蓋ふたを舊きゅうののよよ。主お君きみの寢處ねむ處小こ入いりああととへへううくくとと待まる。
ううきき。芋いも績じの印いん幡はたを輒たゞく溜たまららりり入いる。金かな五ご扇せんの嚮むかうう枕まくら方かた小こ竹たけううとと迎むかええ。正せい亂らん寝ね處しょ了り。すすくとと正せい亂らん寝ね處しょ了り
入いううみみととすすええ。金かな五ご扇せんの嚮むかうう枕まくら方かた小こ竹たけううとと迎むかええ。正せい亂らん卧おつつ床ゆかの間まうう鑄唐櫈じゆとう燒や。あある。夜よのの引ひ被はげ。すすくままれれば。正せい亂らん卧おつつ床ゆかの間まうう鑄唐櫈じゆとう

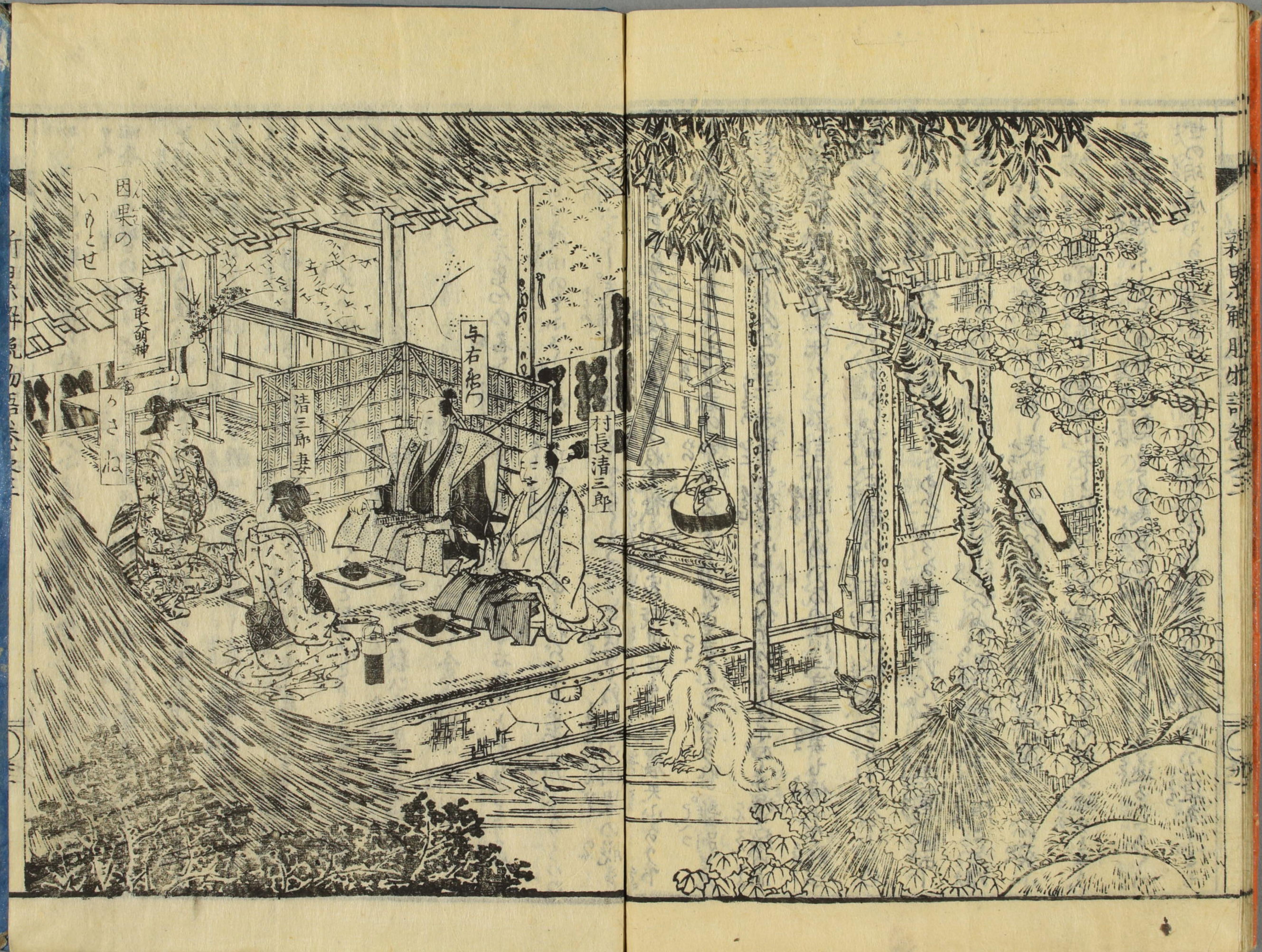
をえり。ころのなかありへらく。すこし續が妙見の示現うとうとくおが
モー。田の足を用田の席を折せり。二もの惡詔はこひかう。田不足を齎れ
を。甲とあり。田日小角を添ひて由日す。さくらの唐櫃の甲由日。これ小禍す
と。曉得く。潛す小眼はうれば櫃の裏小人のけひまる氣息あつた。
さればうととく岸破と反起長押小掛る。よ捨ととく。櫃の真中をく
さと刺す。忍びゆど叫苦一声。裏より蓋拔衝揚る。正胤がて鎧を
引。全身血小塗れ。轉びぬりのあり。これ山梨印幡。正胤とて大
小怒。逆賊天四訓とひあるべと罵もゆ。ゆきび鎧を肉。印幡が吃
を刺さり。忽地小息絶ぬ。その時金五郎つとあつて。長ひ枝を巻くを
て。鋒先の鮮血を拭んとむろ。正胤もは怒ふ堪むとく。金五郎をあ
し疾視。この悪虫年。因心を擔かく。恩をあらむ。豫よ印幡と密會し。彼
を唐櫃の裏小階。それを弑さんとむろ。其處退ちとのじよにあ
ら。槍をあらじて刺すと。金五郎の氣をく。額つてやく
や。これが愚勇と。君恩の恩をあれり。身小拂繡を著。口義
味小飽。行の不足あり。君を弑せんと謀ら。及をかく持べて小身よす。次を
さる。伏されば別小欲あると。君を弑せんと謀ら。及印幡がて小身ある。
覺あ。と。借り。君怒。小乘。と。すげ。討果。一命をく。縁を
繩。胸小由り。金五郎が不吉。小ゆ。印幡既小死。されば面も。腰も。つ
るを。や。解とも。諾あ。但印幡が寝处小階入る。越度かよ。て
首を刎ら。是れ小及。但印幡のりれ衣を被ら。れん。凡生も快く
目と。身に。と。卓立と。あく。手集と。頃を。握。刺すと。だく。だく。小衣



の襟えりを左右へうねらし。手の肌はのひとあわせ、一寸の間まで、言ことの腮ほとひ断きる。氣きをうねば。正胤まさたねつぶくとえぐ。忽すこち憂惜おもむかの情じやう度ども。よも小殺ごせつとも小忍ごしんびど。されどもこれを免かぎ。始相はじあいの念おもをもつとめだやう。ときんかくらんとおひるみをひく。ありけり折おりしも宿寢しゆしんの近臣きんしん。すく。洋鄉音ようきょうおんとゆつけ。よかく燭ろうを秉もちく。遠待とおまちり。走はしそ来くわつ。この景迹けいせきをススく。駆くけ。正胤まさたね近臣きんしんをそよぐ。山梨やまな印幡いんばん西入せいにゅう金立きんりつ郎罪ざいのる。小誅こしゆ。印幡いんばんハ既すでに小誅こしゆ。金立きんりつ郎らうハ嚴いつしく縛しばて獄屋ごくや。小繫こくげ。久の歳としこにのとうかくセトとけえむな。捨すてをきのまゝ。憂うと投なげ捨すて後堂ごとう。よへうする。近臣きんしんホウケ。失庭しじめい小金立こきんりつ郎らうを縛しばく。外ほかの方ほう小罰こばつ出だし。印幡いんばんが死死を擅せんら。のれゆき小送こしゆけ。の印幡いんばんハ妻子さいしもあられば。との友とも憐れ。憐れ。竊くわふ。竊くわふ。金立きんりつ郎らうハ家の奴婢やどり。主ぬしの禁きん獄ごくもられ。主ぬしと。大おほ小ちい驚おどろく。金立きんりつ郎らうとおもふうさんとおもふ恩顧おんくわのりれもあふられ。只ただがのれく。がのれと脱ぬんとする用意よういの外ほか。更さら小化こかくり。かくく正胤まさたねハ。夜奥よとう。すく。告債ごぜい。印幡いんばん金立きんりつ郎らう。くるとゆえあくし。妙見みょうけんの不視ふし全ぜんく這なづ本もと二人ふたりがゆき。信しゆひよ。解わかく。とぞ仰あおる。苦丁くとう債さいハ豫よと謀めぐを定さだめ。金立きんりつ郎らう。印幡いんばんと今いま公こう隕おち。金立きんりつ郎らうハ獄屋ごくや。小繫こくれ。とゆく。安やす小相違あいだ。とゆく。言ことと乃のうく。金立きんりつ郎らう。城しろあくとゆふやう。まゆれと正胤まさたね。まゆれと。思慮おももあくべうと。半信はんしんト半疑はんぎ。がうく。刑けいと行ゆ。とゆく。後あと金立きんりつ郎らうを。すく。鞠問くきもんと數回すうかい。ふ及び。りと。ゆと。まよも。めふ。家いえ違たがふ。めふ。助命すけめいのうぶ決けつし。有あ一日正胤まさたね。守まつ績せき。小こりうら。金立きんりつ郎らう。家いえ小こ弑し遂すいのうぶ。但ただし印幡いんばんと竊くわ會あつ。證据ちゆうきよ分明めいめい。非免ひめん。とく。とく。家いえ小こ罪人ざいじん。主君しゆくんの不德ふとく。子孫しゆそんの為ため。も。因いん。助すけ。と。彼かれ。今いま下げを。助け。生涯せいがい

物故おとせし不忠の天罰をあらせやる人とりく頃日そのより尋思する
小彼ハ世小婦す。美男少々今茲十六歳至べ。りこれ小才女也醜婦を
妻せしも彼いきくう物公もわがまんあうと見小印噺と不義の相語ヤと悔
ふ恩の高凡と名ひもふ今殺をとも勝も。ふ憤をもそそ不思れり
うてその醜女を索るふやと易く故にふとされば彼を富家の督とせばそ
妻醜いとも外宿ふ立女が難いじと難いじと難いじ。とく家貧し既の女更に妻
をふ。彼艱難をばうに從屠児乞兒の女與てさせ。夜又は等に北砦女あ
う。金五郎と女督とうくろひ士うさんりととりふ。苧績は正龍の金五郎を
殺しゆきとえく。士うく先づ急にうち笑え。やう。殺すに罪人城
助今キテと宣へよ。君の仁政いと旨く。竹。こへが故郷小一人の疏かわう。
彼の死生村の農夫とたぬいとひの女児よ。名成田系とよ。う。の醜女守
目があやう亡。は隕る。ふ西がそ。だの足。蹇す。母は産後日月。う。父十年
あ。前小往方う。きりめ。家空く。貰へ。物凄い。醜女されば。年來督
と索ふ。縁結り。ひのよ。り。堅仰。仰て金五郎。誠。とほ。多。累。が。み。さ。大。う。る
僕。偉。う。ふ。の。こ。へ。が。文。清。三。郎。こ。そ。と。か。う。て。行。れ。と。と。の。正。亂。と。款。心。そ。縁。由
を老臣小仰。下總。う。吉。三。郎。と。は。あ。す。う。累。が。ふ。と。因。せ。ら。く。ふ。卒。後。が。や。せ。に。小。遠。ふ。
清三郎。累が父と老臣と從弟。う。る。板。ふ。今。多。累。と。扶。助。と。と。ア。不。正。亂。と。ね。く
金五郎が罪ある。を。説。あ。し。彼。を。下。く。累。が。督。ふ。な。り。べ。し。女。よ。う。と。と。正
討。せ。よ。と。宣。い。納。聘。と。と。金。五。兩。あ。ま。う。と。逃。と。さ。由。へ。清。三。郎。と。く。款。ひ
彼。ひ。ひ。よ。く。死。女。す。れ。ば。年。来。女。督。を。索。る。ふ。絶。く。夫。と。老。臣。と。り。ひ。す。く。だ。ち
か。か。よ。く。大。き。僕。偉。う。婚。縁。の。す。り。仔。細。り。と。義。言。や。く。ふ。近。ぞ。金。五。郎。と。

卷之三



かくわよれ小計さうをなれり。とひみ。清三郎夫婦カミネキ。びのる。と石償イシカモ。
回答カクダツ。婚の未シをすう程ほど。四立ヨリタツと。千葉の走卒チヤウ七人。金五両
を送おもて。その夜の婚姻ミツジンをえ果くわりね。と。金五両カミネキ。累カミと
えれば。坐すわりあはえ。芳よしき。醜う女め。呆あつれ果くわり。累カミ又金五両カミネキと
見み。と。小勝こちる。美男うつくしあれば。心こころ。妻めたかす。あうれども彼夫婦カミネキ、
父ちちがのの。父ちち似おな。人ひと信しんとう。しのまトト。金五両カミネキ。累カミが
醜うを厭うら。との信しんあると。放はなり。累カミ金五両カミネキ。又奇眉アラヅメ。孟德モンテ醜うが
鳴なる。偶うそが。清三郎セイサンロウの形勢けいせい。小ちいちやく。すく。りうとう。うら
と。累カミが父ちち。与よ左衛さゑの名なを象ぞう。金五両カミネキを更かわく。与よ右衛さゑと。と。累カミと。左衛さゑ
と。左衛さゑ。父ちち。夫婦カミネキ。餉くわへうかゆゆね。与よ右衛さゑ。刈さわらうり。左衛さゑ
と。左衛さゑ。夫婦カミネキ稼さく。その日ひと送おもて。宣是アシス。小因果コインゴの脱だつ也
が。今いまの二人ふたりが。あり。抑おの。与よ右衛さゑ。父ちち權ごん之丞ノニヤウ。累カミが父ちち。与よ左衛さゑ。後妻カミ。玉
芝タマシと。奪だつひ。夫婦カミネキ稼さく。その日ひと送おもて。宣是アシス。小因果コインゴの脱だつ也
と。へ。今いまの二人ふたりが。あり。抑おの。与よ右衛さゑ。父ちち權ごん之丞ノニヤウ。累カミが父ちち。与よ左衛さゑ。後妻カミ。玉
芝タマシと。奪だつひ。又主おもの女め兜かぶり。田糸娘タナシメと。福ふくれて。ああが。程ほの。が。隨つづり
世よを。獲と。ん。ど。と。又一睡すいの夢ゆめ。玉芝タマシと。殺害さつめい。その身みも。逐電よ電でん
と。他ほかの妻めと。奪だつひ。妻めを。寃くわい。と。惡報アラハシ。との子こ。小保こぼり。又累カミが父ちち。与よ左衛さゑ。や
謀むらられ。父ちちが。故鄉カミナリ。追放おはなされ。世よ小保こぼり。醜う女めと。妻めと。又累カミが父ちち。与よ左衛さゑ。や
田糸娘タナシメを。墨田川カミタガワ。投なげ入れ。金かなと。奪だつひ。と。惡報アラハシ。との子こ。小保こぼり。累カミが。醜う
女のめの。と。う。は。禍神アラハシ。小結コウザク。二世にせいの仇ごと。あ。き。ど。と。と。妻めと。う。う。夫おと。奇眉アラヅメ。惡
葉アラハシ深ふかに。沼カミナリの。お。下さ。流フ。小。糸タナシを。と。る。草タケ。犢カミ。終まつも。い。う。あ。が。た。と。の。次つぎの。卷まき
解わかる。ふく。あ。く。ん

